

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 5 区分
 【発行日】平成24年1月12日 (2012.1.12)

【公開番号】特開2010-163080(P2010-163080A)
 【公開日】平成22年7月29日 (2010.7.29)
 【年通号数】公開・登録公報2010-030
 【出願番号】特願2009-7701(P2009-7701)
 【国際特許分類】

B 6 2 J 99/00 (2009.01)

B 6 2 J 23/00 (2006.01)

【F I】

B 6 2 J 39/00 J

B 6 2 J 23/00 A

B 6 2 J 23/00 F

B 6 2 J 23/00 G

【手続補正書】
 【提出日】平成23年11月17日 (2011.11.17)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 3 1
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 3 1】

すなわち、図 3 において、センサカバー 5 8 は、センサ 5 6 より前方でシリンダ（シリンダブロック 5 3）に取り付けられる取付部 6 1 Lと、この取付部 6 1 Lの後端から前方へ略水平に延出して車両側方から見てセンサ 5 6 の前方斜め下方位置に配置される板状部 6 2 Lとを有している。そのため、上述のセンサ保護作用及び冷却作用が発揮される。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 4 4
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 4 4】

図 8 の 9 - 9 断面及び 1 0 - 1 0 断面を、図 9 及び図 1 0 で説明する。

図 9 に示すように、車幅中心にバッテリー 1 0 3 が配置され、このバッテリー 1 0 3 の上方に燃料タンク 4 4 が配置されている。そして、サイドカバー 3 1 から車幅中心へ突出された第 2 テラス部 8 8、8 9 に各々第 1 物品 1 0 4 及び第 2 物品 1 0 5 を支持させることが可能となる。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 4 5
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 4 5】

さらに、図 1 0 に示すように、物入れの壁 8 3 から車両側方（図では右）へ突出形成されている第 1 テラス部 8 6、8 7 に各々第 1 物品 1 0 4 及び第 2 物品 1 0 5 を支持させることが可能となる。そして、第 1 テラス部 8 6、8 7 と第 2 テラス部 8 8、8 9 が協働することで、長尺の物品を支持することができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0055

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0055】

図11において、上位の第1テラス部86と第2テラス部88とは、互いに向かい合うように、一方がL字を呈し、他方が逆L字を呈している。そのため、第1収納部106に収納した第1物品104の前後方向の位置決めをすることができる。

また、下位の第1テラス部87は前下がりとされ、第2テラス部89のクランク上部91は、第1テラス部87の延長線上にある。第2物品105、105Aは、前下がりに傾斜した状態で第2収納部107に収納されるため、車両後方に移動し難くなる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0072

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0072】

また、図23に示すように、リヤフェンダ23は、リヤフェンダ後半部141とリヤフェンダ前半部142との2部品を繋いで構成する。

リヤフェンダ後半部141は、図24に示すように、前端に接続部143Fを有する。

リヤフェンダ前半部142は、図25に示すように、後端に接続部143Rを有する。

リヤフェンダ23を分割可能にしたので、リヤフェンダ23の車体への取付がより容易になる。

【手続補正 6】

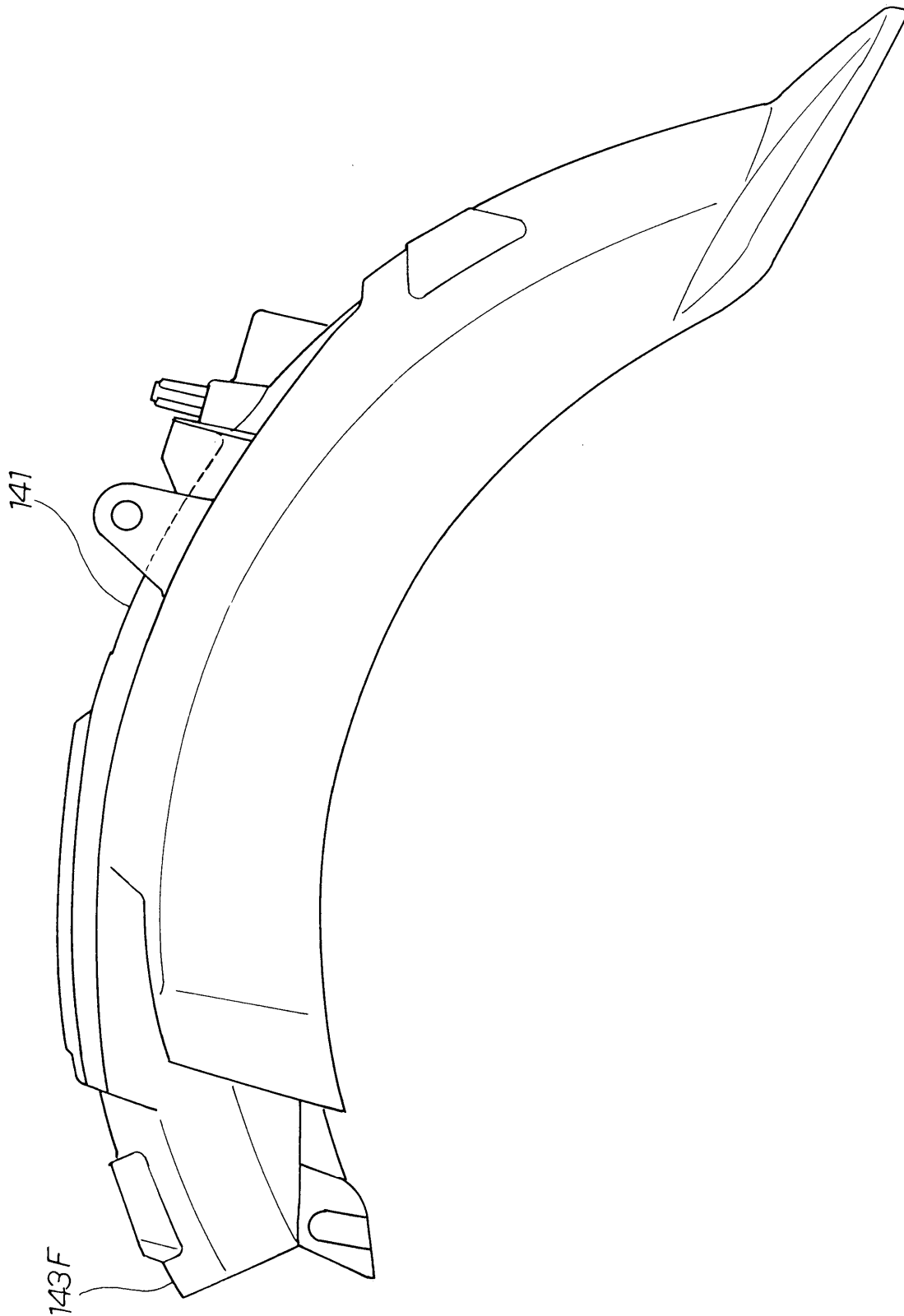
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図24

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 2 4】



【手続補正 7】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 25】

